

# 岡山後楽園

## 石造物編

後楽園には石を使ったいろいろな景色があります。石灯笼のような照明のための道具のほか、石を組んで石そのものが景色となっているもの、階段や橋など役目のあるものなど、たくさん見つけてください。

### 景色となる石組

流店の水路に置いた美しい色の石



花葉の池の大立石



延養亭前の大平石



唯心山の東(写真左)



と北(写真右)の石組



花交の滝と中島

### 役目のある石



北の入り口の自然の石を使った橋



延養亭前の沢飛石[建物にわたる石]と手水鉢[建物左前の水鉢]



廉池軒前の切った石(切石)を組合わせた橋



観騎亭前の大きなくつぬぎ石[はきものをぬいで座敷にあがるための石]

### 石の階段



唯心山



栄唱の間



御舟入跡

### 神仏をおまつりする場所



慈眼堂



由加神社



稲荷宮(東)

石や石組で  
けわしい山を  
あらわす

玉垣や  
春日型  
石灯笼

鳥居や  
宮立型  
石灯笼

### 後楽園にある主な石灯笼の型

図版出典・『築山庭造伝』後編 中巻 (岡山県郷土文化財団所蔵)

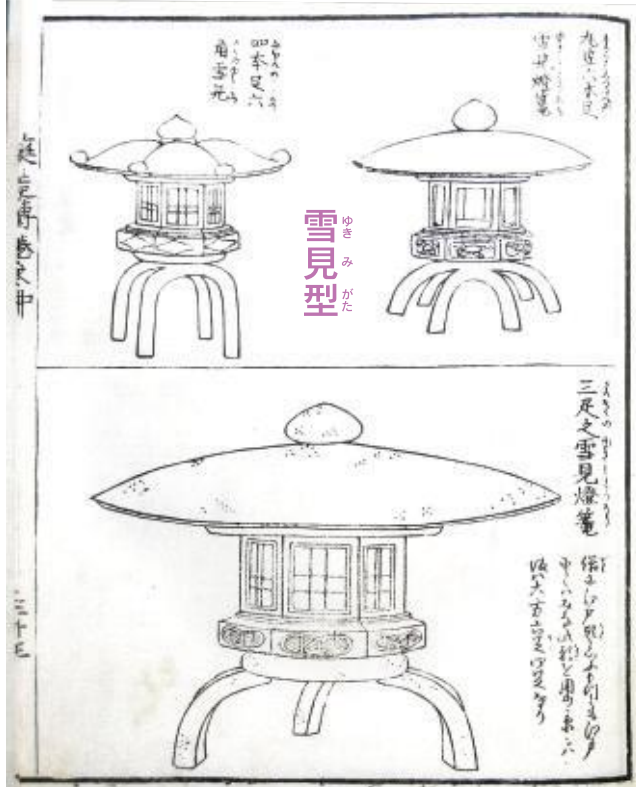
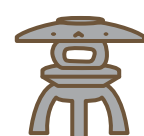


### 『築山庭造伝』

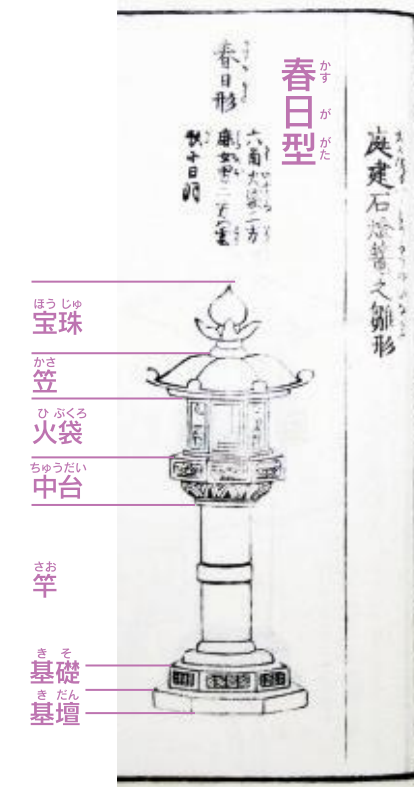
江戸時代中期に最も広く普及した作庭書で、明治に入っても刊行された。前編は造園家北村援琴斎の著(1735年)で、相阿弥流作庭書として独立して刊行されたもの。後年、籬島軒秋里がより実践的な書として後編3冊を著し(1828年)、前編と合わせて流布した。(参考・ブリタニカ国際大百科事典)



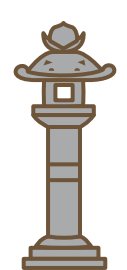
この灯笼、茶方に多く用ゆる  
古田織部の墓にあるゆえ其の名をいう



三足の雪見灯笼  
俗に江戸形という、もともとは江戸にてはみな此の形を用ゆ。  
京、大坂は大方六足四足なり



春日型  
六角火袋二方鹿女男二方へ雪形に日月



### 石灯笼の基本形

もとは神仏に灯りを奉納するための灯笼であつたものを、茶人が露地庭を照らす器具として転用した。  
江戸時代には景色のひとつとしていろいろなデザインのものが庭に用いられるようになった。



由加神社の春日型石灯笼



茶庭型  
型(タイプ)にはまらない  
自由なデザイン  
というくらいの  
意味合い



おか やま こう らく えん  
岡山後楽園  
をもっと知ろう!  
せき ぞう ぶつ  
石造物編



おも  
主な  
いし どう ろう  
石灯籠と  
いし ぐみ  
石組

凡例	
記号	内容
	せき どう 石塔
	けい ぶつ いし どう ろう 景物としての石灯籠
	ちやう ず ばち 手水鉢
	やく め も いし どう ろう 役目を持つ石灯籠
	とり い けん どう いし どう ろう 鳥居と献灯としての石灯籠
	た せき ぞう ぶつ その他石造物
すちゅう も し どう ろう 図中の文字は灯籠のタイプ	